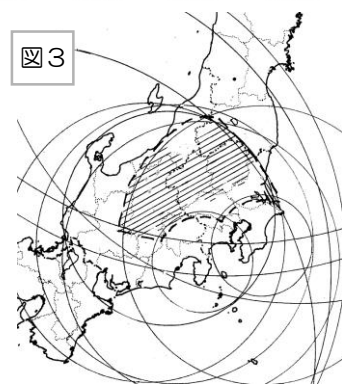
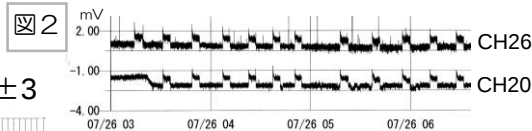
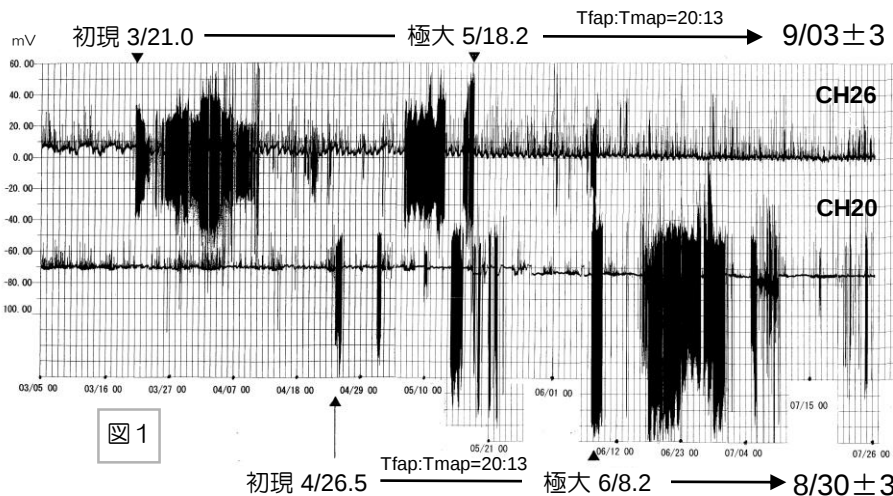


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、 $M7.3 \pm 0.5$ の地震が $1/2 \pm 2$ に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模 $M6.1 \pm 0.5$ 、海深補正 $M0.9 \pm 3$ 、推定規模 $M7.0 \pm 0.5$ ）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターン $Tmap=12$ 日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

No1778 長期継続前兆変動 続報



◆No1778前兆変動は図1のとおりです。顕著特異変動が出現していない時間帯には図2のようなPBF特異変動が継続出現しています。CH26とCH20の顕著特異変動の極大認識は図1中に記したとおりで、変更はありません。従って、現状では変わらず、9月1日 ± 2 発生の可能性が示唆される状況に変更はありません。

◆仮に9月1日 ± 2 発生となる場合は、両観測装置の変動が8月5日 ± 3 頃に終息する可能性が計算されます。これを確認することが重要です。

◆推定領域：図3斜線域 点線域＝大枠域

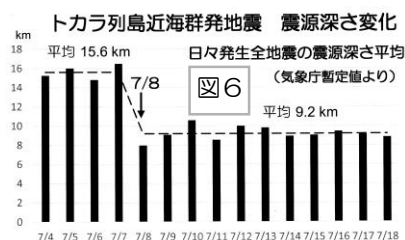
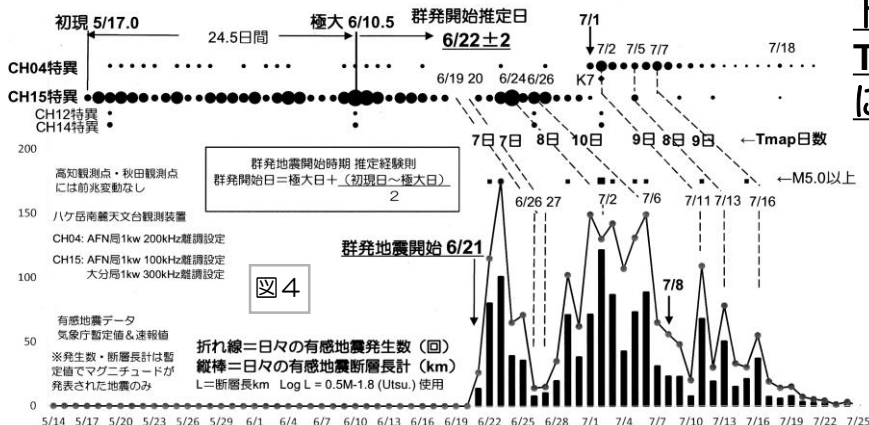
◆推定規模：単発では $M8.0 \pm 0.3$

複合では $M7.3 + M7.4$ 等※

※Log L=0.5M-1.8(Utsu.) 式で余震を含まない断層長Lkmが合計で110～150km程度となる様な複合地震の可能性も有

◆推定時期：9月1日 ± 2 今後の観測で修正の可能性

CH15・CH04 特異型前兆変動 と トカラ列島近海群発地震活動 相関 2025年



変動検知観測装置がCH15からCH04に移行した後、Tmapと同じ7日後から震源深さ浅く変化

◆今回の群発は高知観測点・秋田観測点には検知されず、ハケ岳のみに検知されました。特異変動の震央からの距離が関係している可能性有。また図4のとおり、7/1から変動検知観測装置がCH15からCH04に移行しましたが、 $Tmap=7$ 日となる7/8から図6のとおり、群発地震の各地震の震源深さが一気に浅く変化しました。非常に興味深い観測データが得られています。参考まで。